

クロボトキン『相互扶助論』における「相互扶助」

- ・競争/闘争と並ぶ生命発展、進化要因
- ・個体群間の協力と協働による集団としての生存、繁栄
- ・現代>血縁、地縁、職縁、趣味、関心などでもみられる (eg「推し活」仲間など)
- ・自然と文化を相補的に捉える

留学>信仰→文学への興味関心、クロボトキンとの出会い

父(武)と妻(安子)の死による「家という束縛」からの解放

ニセコ町長所信表明

基本理念

私は、ニセコ町が日本のみならず世界から信頼される「食糧基地を有するリゾート地」として発展するためには、SDGs(=持続可能な社会資本整備)を強力に進めるとともに、乱開発を防止し、**優れた景観と環境との調和による「賢明な開発(ワイズユース)」**が必要だと思っております。

将来に亘って、環境を守る「適切な規制」がある自治体には、「良質な投資」が行われるとの考えをこれまで述べてまいりました。ニセコ町を「市場の草刈り場」にはしないこと、目先の利益や収入増に踊らされることのないこと、このような考えを持ちつつ、一方で、**税収をはじめとする自己財源比率を高めることなどの「持続する財政政策」、**「適正な開発誘導」に配慮し、**将来を俯瞰した財政運営を引き続き進めてまいりたいと考えております。**

ニセコ町は、北に国立公園の「ニセコアンヌプリ」、東に国立公園の「羊蹄山」、そして南には植生豊かな昆布岳が美しい山並みを描き、まちの中央を「清流日本一に輝く」1級河川「尻別川」が流れる、自然環境と景観に恵まれたまちです。

こうした**豊かな自然を享受する中で、楽しく毎日過ごす町民の方々の暮らしぶり、そして、今日の町民のみなさまの自然と共生する「ライフスタイル」**そのものが、**ニセコ町の大きな魅力**であると考えております。

美しい農村景観の佇まいとともに農地の基盤整備が進みつつある農業や、多くのみなさまのご尽力で伸展しつつある観光も、**自然や生活環境における「水」や「食」などの「安全」・「安心」**があってこそ、**人々から信頼され、そして、ニセコ町が持続していく基盤となるもの**と確信しております。

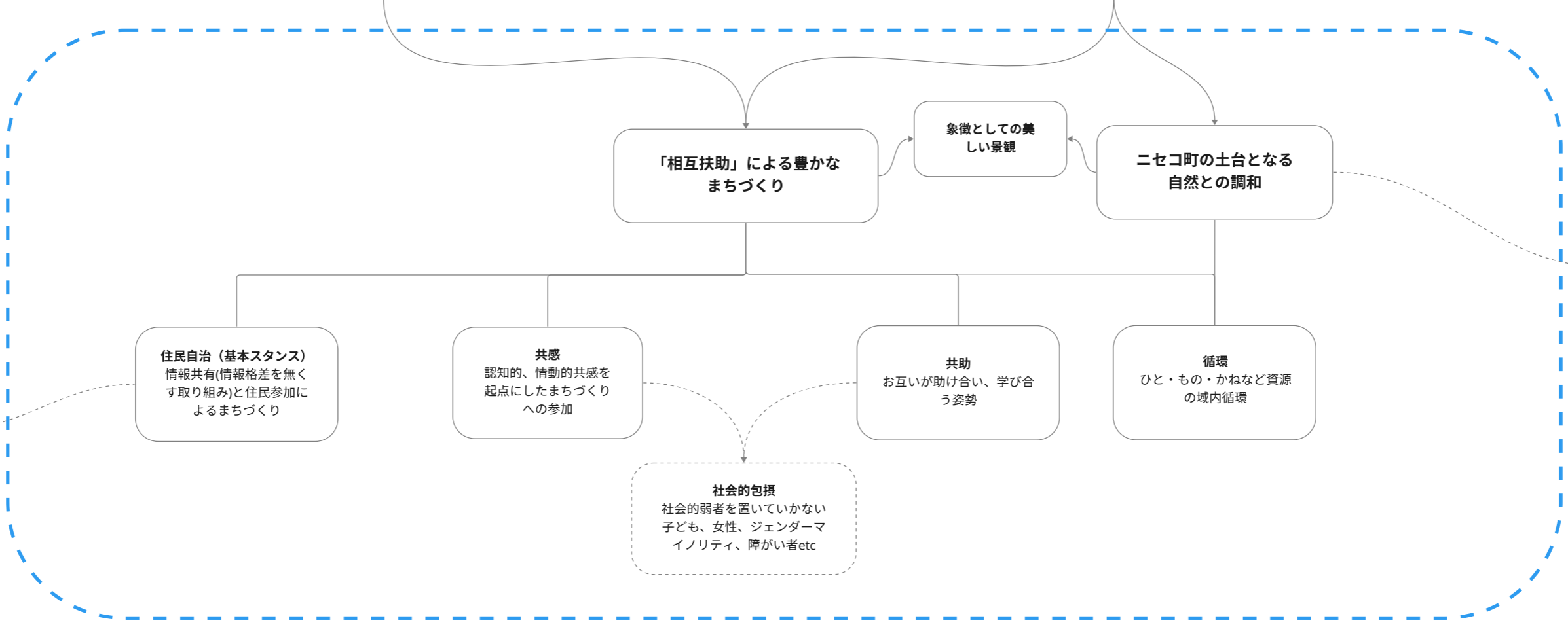
町長所信表明 令和3年10月

有島武郎_農場解放

<歴史的な裏付け、ストーリー>

農場解放「小作人への告別」1922年(大正11年)7月

生産の大本となる自然物、すなわち空気、水、土のごとき類のものは、**人間全体で使用すべきもので、あるいはその使用の結果が人間全体に役立つよう仕向けられなければならない**もので、**一個人の利益ばかりのために、個人によって私有されるべきものではありません。**しかるに今の世の中では、**土地は役に立つようなところは大部分個人によって私有されている**ありさまで、**そこから人類に大害をなすような事柄が数えきれないほど生まれています。**それゆえこの農場も、**諸君全体の共有にして、諸君全体がこの土地に責任を感じ、助け合って、その生産を計るよう仕向けて**いってほしいと願うのです。

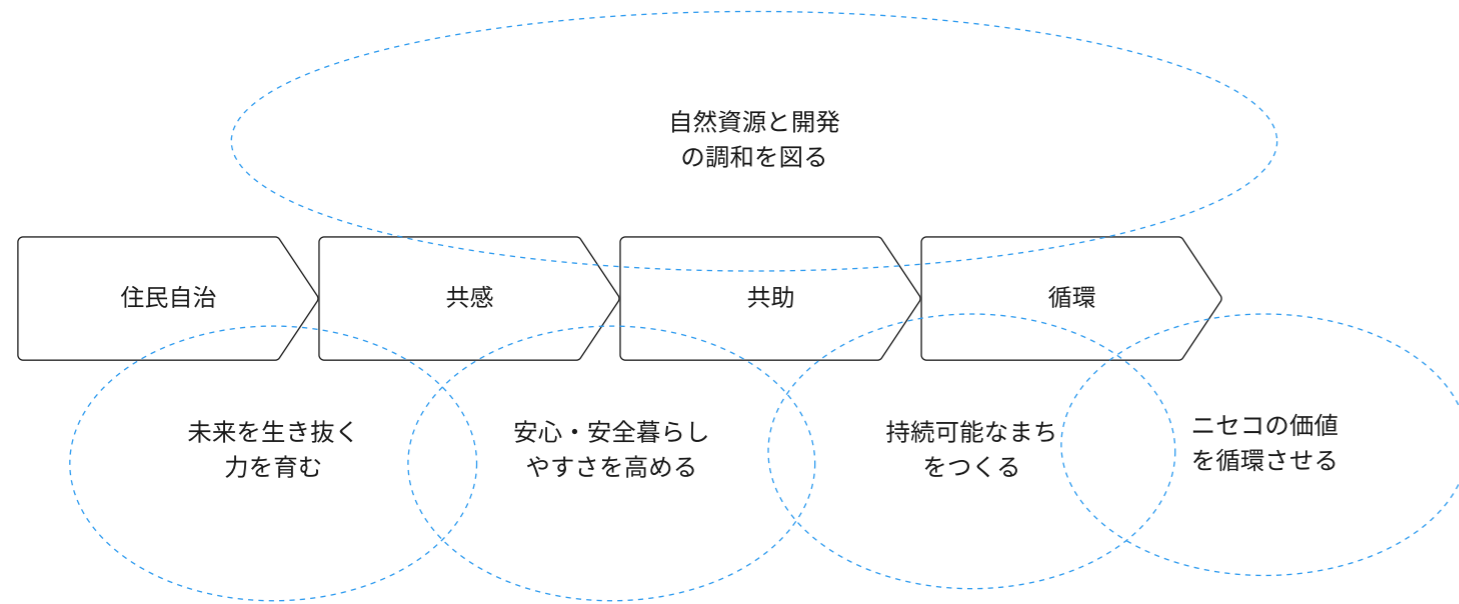


(参考メモ) 「苛酷だった開拓の歴史を前提に、美しい自然と交互扶助を通じて誇りを育て、「自治」の基本を個人々の思考と行動に求めている。(ニセコ「日本と思えない」ところ 巖谷國士)

(参考メモ)

- ・「京都などは歴史があつての観光だけど、ニセコは長い歴史があるわけじゃない。ニセコは、ニセコとしての自然を基とした観光です。後世の人たちが、ここに住んでいて良かったと思えるような、生きがいのあるふるさとになっていったらいい」(歴史を伝える曾我とニセコの案内人)
- ・「農産物を生産するだけではなく、風景を生み出すのも農家のしごとの一つ」(苗を通して未来の環境を考える)

ニセコらしさの構成要素と
WS + 審議会のキーワードとの関係性(イメージ)



「シビックプライド」の位置付け(イメージ)

* 「シビックプライド」はまちづくりの実践の中で育まれるもので、まちの理念に組み込むより町内向けに達成したい項目として位置付けるのが良い？

